

専門性高い薬剤師育成

岐阜薬大が薬局勤務者の講座設置

たんぽぽ薬局の寄付活用



連携に意気込む原英彰学長(左から2人目)と松野英子社長(同3人目)ら＝岐阜市大学西、岐阜薬科大

岐阜薬科大(岐阜市大学西)は4月、たんぽぽ薬局(同市若宮町)の寄付金を活用した「社会薬局薬学寄付講座」を設置する。薬局に勤務する専門性の高い薬剤師を育成する拠点とし、両者の連携による臨床薬学研究に取り組む。

した講座の設置は9例目。講座では臨床薬学研究のほか、大学が保有しているデータを活用した医薬品の適正使用や副作用に関連した研究を実施する。博士号の取得を希望する薬局の薬剤師への支援なども行う。

同大病院薬学研究室の吉村知哲教授と薬局薬学研究

室の井口和弘教授、特任教授として同社の松野英子社長らが担当する。期間は3年間の予定で、初年度の寄付金額は1千万円。

同大で27日に記者会見が開かれ、原英彰学長は「産学官連携の重視は地域貢献

にもつながる。講座からの研究成果が広がることに期待したい」、松野社長は「一年間に延べ300万人以上が(自社の)薬局を利用して。価値のあるデータの分析から地域に貢献できる研究に結び付けたい」と述べた。同社は県内外に150店舗以上を展開。同大からこれまでに約60人が入社している。(松田尚康)